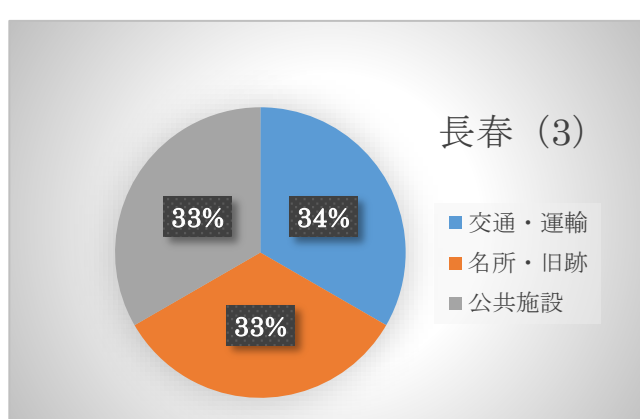
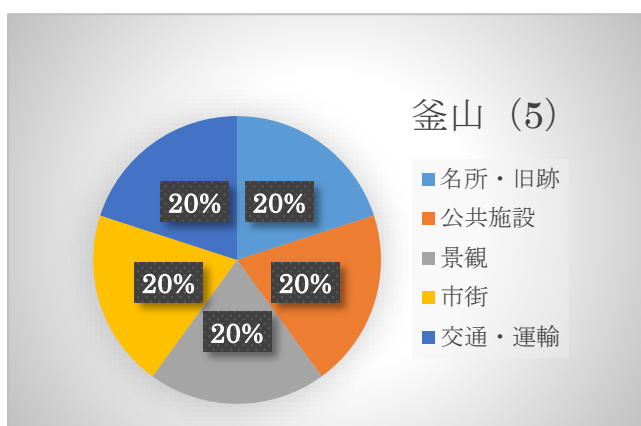
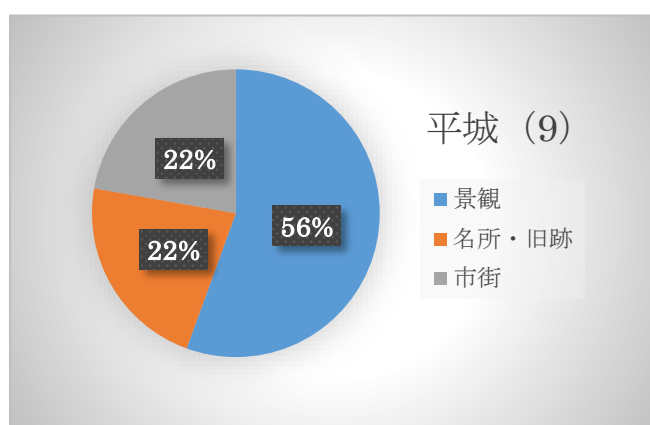
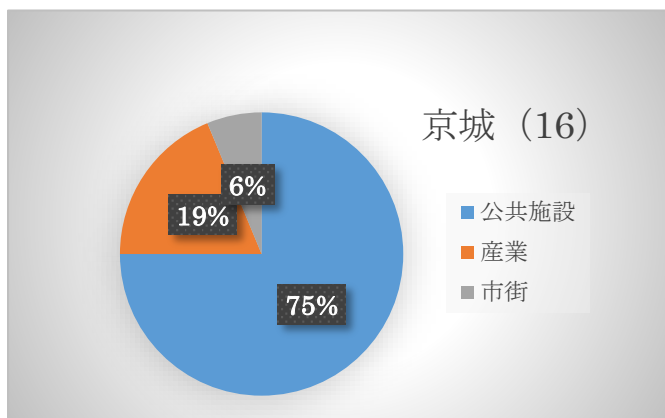
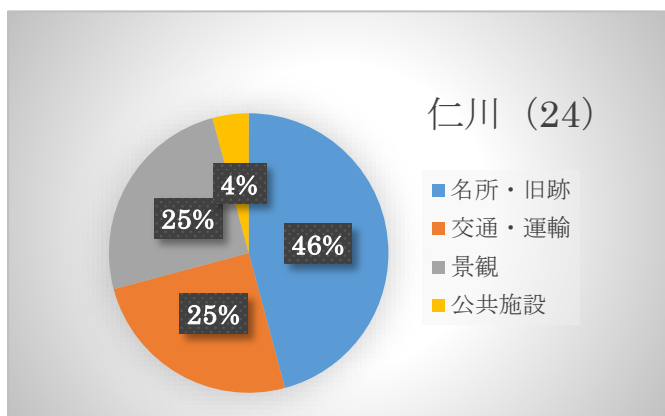
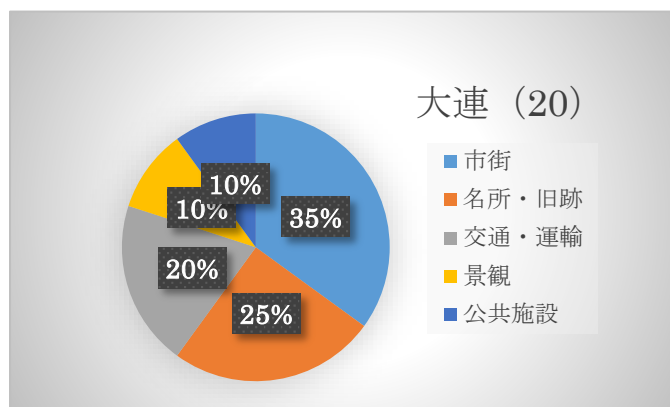
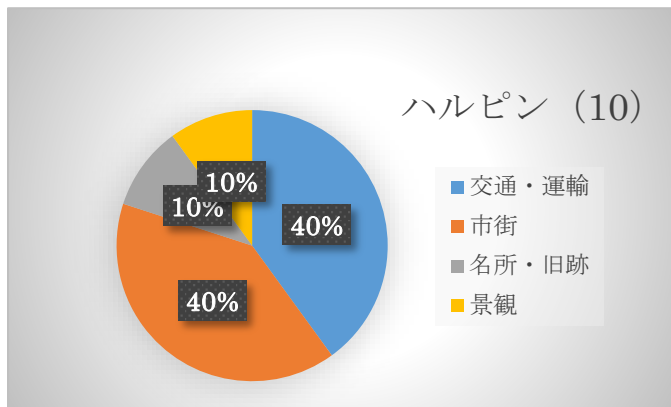
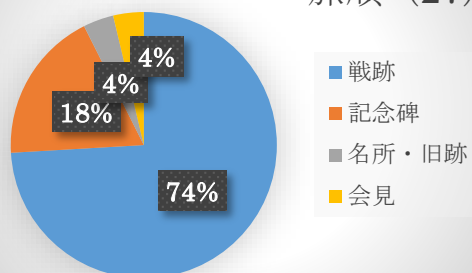


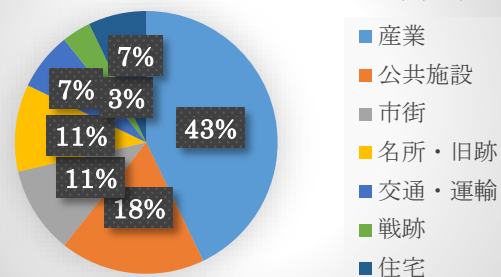
各都市における絵はがきの写真の種類別の分布



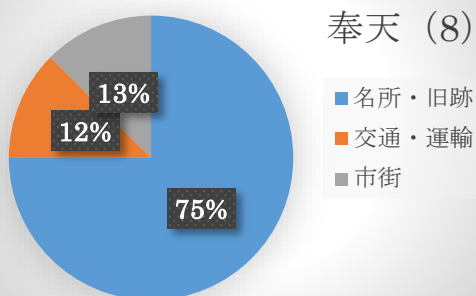
旅順 (27)



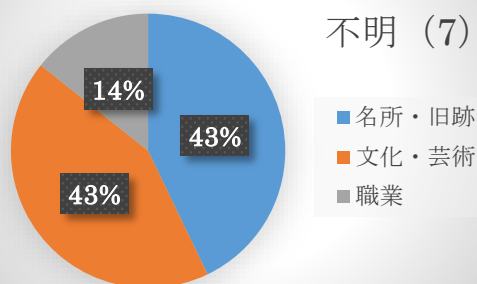
撫順 (28)



奉天 (8)



不明 (7)



昭和2年の韓国の絵はがきは、当時の社会の文化・生活などの情報を示すものとして、貴重な歴史的資料である。そこで、157枚の絵はがきの写真にみられる名所・旧跡や文化・芸術、景観、博物館、公共施設などに分類して、各都市の特長をクローズアップした。

京城、平城、長安、奉天、釜山などの都市の葉書は、名所・旧跡、景観、公共施設などスタンダードなものであった。しかし、撫順、旅順の絵はがきは、石炭産業や日露戦争の戦跡、記念碑などが多く、当時の社会状況を示していた。これらのことから、絵はがきは、時代背景などを分析することができるとともにその時代の世相や風俗を知る上で重要な、近代の歴史資料とも言えます。

— 「絵はがき100年：近代日本のビジュアル・メディア」（橋爪紳也著：朝日新聞社 朝日選書 2006年）参考—